

トルコの金融市場動向 Weekly Report

【2018年2月24日～2018年3月2日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドル、対円で下落しました。またトルコの2年国債金利は上昇しました。

1月の貿易収支についてはほぼ市場予想通りの赤字額となり市場への影響は限定的となりました。

トルコ軍はクルド人勢力掃討のための越境作戦を継続しています。国境付近にはシリアのアサド政権派民兵組織が援軍として展開していることから衝突への懸念が高まりやすい状況が続きました。

トルコ金融市場では、地政学リスクの高まりが懸念材料となり、トルコ・リラは対米ドル、対円で下落しました。一方、トルコの2年国債については、小幅な金利上昇となりました。

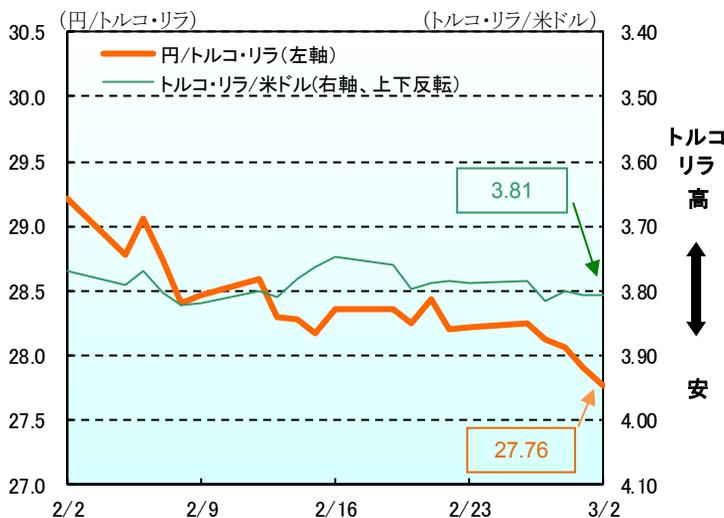
【2】今週の見通し

今週は2月の消費者物価指数の発表が予定されているほか、金融政策委員会の開催が予定されています。前年同月比で見た消費者物価指数の伸び率は1月から鈍化することが見込まれています。また金融政策委員会では、後期流動性貸出金利を含めた主要政策金利はすべて据え置かれる見込みとなっています。

引き続き、トルコとシリアの関係が相場の材料になりやすいと想定します。仮にアサド政権派民兵組織よりも強力な戦力を保有するシリア正規軍が国境付近に派遣され、トルコ軍と衝突が懸念される状況となれば、地政学リスクの高まりが相場の重しとなると考えます。

一方で、アサド政権はロシアの意向にも配慮する必要があるなど正規軍の派遣は容易ではないと考えられています。本格的な衝突状態にならないければ、トルコ経済への影響は限定的となると考えられます。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2018年2月2日～2018年3月2日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【トルコ 金利推移】

(2018年2月2日～2018年3月2日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>